

8. 精密検査が必要といわれたら

マンモグラフィや超音波検査で悪性が疑われる場合には、細胞や組織を取って顕微鏡で見る詳しい検査が行われることがあります。

細胞診検査

がんと疑われるところに細い注射針を刺して注射器で細胞を吸い取り、顕微鏡で観察する「穿刺吸引細胞診」と、乳頭からの分泌液を採取して顕微鏡で調べる「分泌液細胞診」があります。

組織診検査 (生検)

超音波などで採取部位を確認しながら細胞診の場合より太い針で、組織の一部を取る「針生検」、さらに太い針を使う「マンモトーム生検」、皮膚を切開して組織を取る「外科的生検」があります。いずれの場合も採取した組織は顕微鏡で検査します。細胞診検査に比べて採取できる組織や細胞の量が多いので詳しい検査ができます。

センチネル リンパ節 生検

乳がん細胞が乳房から他に転移していくとき、最初に行き着くのがわきの下にあるリンパ節です。このリンパ節が“見張り役”（センチネル）になって、ここががん細胞がなければその先には転移がないと判断する検査法です。